

富山高校物語Ⅱ 先輩の贈り物「太郎丸の杜」が守る、緑美しい校地

本校には、日本が世界に誇る「森の文化」が息づいており、百年を越えた「太郎丸の杜」が校地を守っています。

この森には、本校が遭遇した2度の大火災が関わっています。

明治32年に、総曲輪校舎が富山市大火の類焼で焼失しました。その後、寺院を借りて授業を継続し、明治33年に、現在の太郎丸に校舎が移った際に、生徒と教員の手で四千本の記念植樹が行われました。当時の皇太子(大正天皇)ご成婚のお祝いとともに、防災への願いもありました。



校地の周囲 「太郎丸の杜」

類焼を防いだ森

こうして生まれた「太郎丸の杜」は、70年後に防災林としての大きな役割を果たしました。

昭和46年5月、校舎を外部機関に貸したことから失火し、旧木造校舎の大半が焼失した際に、「太郎丸の杜」は火災による火の粉を防ぎ、隣接する民家への類焼と被害の拡大を未然に食い止めました。この時には、大きな被害を受けましたが、その後回復しています。

「太郎丸の杜」の再生

また、平成15年頃、杉の老木、枯木が目立ったため、伐採が行われました。現在は、広葉樹を中心に植樹し、新しい森の再生を図っているところです。

現在、校地のいたるところに100歳年を越える亭々たる樹木が茂り、新たに植樹した木々とともに緑美しい校地となっており、群を抜いた教育環境となっています。



「太郎丸の杜」の遊歩道

安全で快適な環境 全長600mの遊歩道

「太郎丸の杜」の中には、遊歩道を設けてあります。校地内であり安全に、また真夏でも快適にトレーニングできます。小鳥なども訪れ、ベンチなども配してあり、散策もできる空間です。

高校生活の折り折りにくつろぐことができる中庭

大の字の形の校舎の東と西には、日当たりがよく、風もさわやかな中庭があります。

東中庭は、泉水や日時計などのモニュメントがあり、生徒らのくつろぎの空間となっています。今後、ベンチやテーブルなどを整備したいと考えています。

西中庭は、芝生の丘があり、天気の良い日などは、お弁当を広げる生徒の姿が見られます。文化活動発表会では、書道部や美術部のパフォーマンス、コーラス発表などを行っています。



東中庭と池 集う生徒たち



西中庭 書道部パフォーマンスと観客